

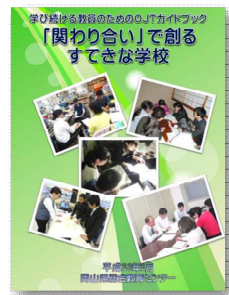
羅針盤

平成28年度 第16号(通算267号)
平成28年11月4日(金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

『学び続ける教員のためのOJTガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅠ 学校力向上につながる校内チーム制

近年、ベテラン教員の大量退職や、若手教員の大量採用、ミドルリーダーとなるべき年齢層の教員が少なくなる等、教員の経験年数のバランスが崩れ始めていることから、若手教員の育成とミドルリーダーの育成、ベテラン教員の確実な指導技術の伝承が喫緊の課題となっています。

岡山県教育委員会では、平成28年3月に「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」を策定し、若手教員と先輩教員が共に育つことができるようなOJTシステム(校内チーム制)の構築を打ち出しました。これに連動してセンターでは、「校内チーム制」について提案したガイドブックを作成しました。今号では校内チーム制実施の方針を紹介します。(平成28年3月30日付 教高指第849号 参照)



<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h27/15-01.pdf> からダウンロードできます。

〈校内チーム制実施の方針〉

- ①若手教員と先輩教員が「関わり合い」ながら、共に育つ「校内チーム制」を整備。
- ②スーパーバイザー(管理職等)を校内に配置(学校全体の課題解決に結びつくよう助言や調整)。
 - ・管理職等が発揮するリーダーシップは次の三つが中心となる。
 - 知識や情報のマネジメントにおけるリーダーシップ
 - 人のマネジメントにおけるリーダーシップ
 - 時間のマネジメントにおけるリーダーシップ
- ③コーディネーター(指導教諭等)を校内に配置(若手教員と先輩教員によるOJTチーム研修を実施)。
 - ・OJTチームのニーズや課題等を把握しながら、意図的・計画的・継続的にOJTチーム研修が進むよう調整する。
- ④チーム編成(若手の講師及び経験年数別研修受講者全員に加えて、他の教員も学校の実情に応じて編成)。
 - ・ミドルリーダーを中心としながら様々な教員が相互に「関わり合う」よう、意図的に組み合わせる。
- ⑤既存の取組の活用可。
- ⑥OJTとOff-JTのさらなる連動。
 - ・OJTチームのメンバーに経験年数別研修受講者を当てることで、Off-JTで学んだ知識や技能、共に学ぶための手法等をOJTチーム研修に取り入れることができる(理論と実践の往還)。

「関わり合い」
教員が自分や学校の課題解決に向け、自律的、主体的に同僚と学び合い高め合うこと。

〈学校力向上につながるOJTの在り方(五つの提言)〉

- (1) 学校教育目標の達成を意識する。
- (2) 個人と組織の双方の成長を促す。
- (3) ミドルリーダーの資質能力を伸ばす。
- (4) 若手教員の主体性を引き出す。
- (5) 学校の実情に合わせた実効性のあるOJTにする。

若手教員と先輩教員が共に育ち、学び合い、高め合う体制を整備し、校内で組織的な人材育成の推進を強化することによって、教員の指導力や学校力の向上に資すると考えます。

『学び続ける教員のためのOJTガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅡ(11月18日(金)発行)では、「校内チーム制の進め方」について紹介します。(担当・教育経営部)

※次号の発行は11/18(金)の予定です。

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>